

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	12-325	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Risk factors related to poor outcome after methanol poisoning and the relation between outcome and antidotes--a multicenter study. メタノール中毒の悪い結果に関連する危険因子と転帰の不良と解毒剤の使用との関係—多施設治験—		
執筆者		
Paasma R, Hovda KE, Hassanian-Moghaddam H, Brahmi N, Afshari R, et al		
掲載誌		
Clin Toxicol (Phila). 2012 Nov;50(9):823-31. doi:		
キーワード		
メタノール中毒、 酸塩基状態、 昏睡		
要 旨		
<p>目的： メタノール中毒の予後と代謝に関する詳細な研究は不足している。本研究の目的は、メタノール中毒による後遺症と死亡と関連する因子を評価し、それらを実証するための簡単なリスクアセスメント医療記録を開発し、解毒剤であるエタノールとフオメピゾールを比較することである。</p> <p>方法： ノルウェー(1979年と2002-2005年)、エストニア(2001年)、チュニジア(2003/2004年)、イランの2つの異なるセンター(テヘラン2004-2009年、そして、マシャッド2009-2010年)の入院患者で、入院時に血清メタノールが陽性で血液酸塩基状態があきらかな症例を、メタノール中毒の後向き観察の対象とした。患者は、その転帰によって生存群、後遺症を残して生存群、死亡群の3つの群に分けた。</p> <p>結果： 合計320例の患者が同定され、117は除外された。残りの203例のうち、48例は死亡し、34例は神経後遺症を残して退院した。pH<7.00が転帰不良のために最も強い危険因子であると判明した。昏睡(Glasgow Coma Scale (GCS) <8)、不十分な過換気(pH<7.00にもかかわらずpCO(2) 3.1kPa)がそれに続いた。エタノール群ではより多くの患者が過換気(低いpCO(2))にもかかわらず死亡した。</p> <p>結論： 入院時の低いpH(pH<7.00)、昏睡(GCS<8)と不十分な過換気(pH<7.00にもかかわらずpCO(2)□3.1kPa)は、メタノール中毒の後の転帰不良で最も強い予測因子であった。簡単なフローチャートが、転帰不良と関連する患者を同定するのに役立つ可能性がある。</p>		